

梅の便りが届きました (常総市内にて撮影)

今日の一日、一年の始まり

施設長 小川内秀樹

特養では、昨年の十一月十八日に収束した二度目の新型コロナウィルス感染であったが、五回目ワクチン接種の終了後も間もなく、みたび、十二月二十九日から施設内感染となり、終息の日を見ないまま、年末年始も感染対策に時を費やした。入居者様十名内一名は入院し、現在既に退院し、ヘルパー二名が感染した。毎日の保健所への報告、過度に渡る検査、感染された入居者様には、隔離居室の中で過ごす頂き、防護服を着たヘルパーによる介護、看護士による健康観察。感染してないお年寄りの方々にも、感染拡大の防止の為、居室から出ない、入浴できないなどの自由を制限された生活を約三週間送らざるを得ず、ご家族の面会休止などの措置をとられて頂いた。三度の経験から、高齢者の方々は、陰性確認まで、約二週間を要するのが、わかるようになった。朝陽が、山肌を紅色に染めるモルゲンロートは、この年末年始に、つくば山に見事に現れた。毎朝その景色が、心を感動させ、穏やかにし、強くさせてくれた。こうして、夕があり、朝があった」とは、神の言葉によって、この天地が創られた事を記す聖書の言葉である。日の終わりは夕ではないのだ。闇の夜が明けて、光の朝が訪れることが、なんと、奥深い、意味のある摂理かと感じ入る。

一月のボランティア

※現在コロナの感染対策の為、ボランティア様の受け入れを中止しております。



(NO411) 特別養護老人ホーム 筑波キングス・ガーデン 0297(24)5139



近藤紀子様の紹介

(長女 金井亜紀様)

私の母は昭和十一年十一月一日群馬県伊勢崎市に生まれました。若い頃から伊勢崎キリスト教会に属し、クリスチャン生活を送っていました。愛餐会の聖歌隊での賛美、お得意のパソコンを使ってのチラシ作成など様々な奉仕を心から楽しんでいました。とても明るい性格で、いつも朗らかに生活を送っていたように思います。

二〇一六年に父が亡くなり、ひとり暮らしになったのを機に、キリスト教母体のキングスガーデンで生活したいと強く希望し、二〇一九年キングスガーデンケアハウスへ入居。二〇二二年十一月から特別養護老人ホームに転居となりました。

昨今は病気がちになり、入退院を繰り返して、体調が心配でもあります。スタッフの皆様の手厚いサポートの元で暮らしていることに、娘として感謝しています。母もいつも「みんな優しくしてくれているよ」と言っています。

母のキングスガーデンでの生活が、穏やかで健康かなものでありますよう、祈りの日々です。スタッフの皆様、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

クリスマス祝会

虹ヘルパー 後藤結衣菜

昨年の十二月二十二日にクリスマス祝会を開催しました。例年、ご家族と楽しいひと時を過ごして頂いていました。なかなか終わらないコロナ禍の中、ご利用者の皆様と職員で小さなクリスマス祝会を開催しました。小此木先生のクリスマスメッセージを聞き、クリスマスの歌を歌い、ブラボースタント、可愛いトナカイからプレゼントを貰い、笑顔溢れる楽しいひと時でした。



クリスマスの特別メニュー ケーキも嬉しい

長寿を願って皆様に、心からのプレゼントです

サンタの訪問月



春の気配と冬の収穫

虹の架け橋ヘルパー 榎田裕恵

施設の周りは寒いながらも春の気配を感じられます。梅の蕾がほころび始め、水仙の芽も土から顔を出してきています。日々、窓越しに季節を感じています。先日、虹の架け橋ユニットの、中庭で育てていた、大根とジャガイモを収穫しました。大根抜きもジャガイモ堀りも、皆さん楽しんでいました。後日、管理栄養士と厨房の協力で大根とジャガイモは、おやつの際に利用者に食べていただき、大好評でした。次回は何を育てようか、ご利用者と相談中です。



立派な大根だね!

【編集後記】 中庭の池に水が張り寒さが一段と厳しくなってきました。体調を崩さないようお過ごし下さい。 ほほえみ担当 後藤・榎田

相談員日誌

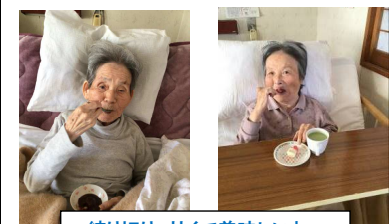
「新春」 宮本 隆幸

明けましておめでとうございます。新しい新春を迎えましたが、年明け早々またしてもコロナ感染が拡大し大変な状況となつてしまいました。令和四年十二月二十九日に施設内でコロナ感染が始まり、正月にレクリエーションを予定していたが行う事が出来ず、楽しみが一つ潰れてしまった。今回三回目の感染拡大である。御利用者には、「みんなと会話出来ない。」や「いつか部屋から出られるのか?」と不穩になる方もおり、精神的に嫌になる思いをさせてしまった。全国で感染状況が減らないのが現状にあり、今後も発生するかもしれない。感染対策をしっかりと、年末年始に出来なかつた行事やご家族の面会を今後取り入れていけたらと思います。

初釜

虹の架け橋ヘルパー 榎田裕恵

年末年始にかけて、コロナの影響で、ご利用者にとつて大変な日々となりました。そんな中、栄養士さんと厨房の皆さんが少しでもご利用者の為に、年越しそばや、おせち料理など企画して下さいました。一月十日のおやつは、味覚と視覚で楽しんでもらえるよう初釜イベントの代わりに、和菓子の可愛い練りきりと、飲み物は、抹茶オレを用意して下さいました。ご利用者の皆様も「かわいいね」「美味しいね」など、うれしそうなお顔をみられました。少しでも、ご利用者の皆様の楽しみを提供できることは、ヘルパーとしても、うれしきことです。準備やアイデアを出して下さいる栄養士・厨房職員に感謝です。



練り切り、甘くて美味しいね



可愛い和菓子いただきます

ハレルヤ。主に新しい歌を歌え。 詩篇149編1節



ホームページ

<p>【二月】</p> <p>二日 九日 十六日 二十三日 三十日 五日 十日 十九日 二十六日 七日 十四日 二十一日 二十八日 九日 十六日 二十三日 三十日 十一日 十八日 二十五日 三十一日</p>	<p>【一月の誕生日】</p> <p>萩野一弘様 七十九歳 大滝隆子様 七十六歳 佐藤房子様 九十二歳</p>	<p>【二月の誕生日】</p> <p>浅野知子様 九十三歳 植田八重子様 八十一歳 笠川昌彦様 七十八歳 鈴木とし様 九十一歳 高田とし様 九十歳 山口晴子様 百一歳 楠貫綾子様 九十五歳</p>
---	---	--

カスミ移動販売 日曜礼拝
ジャズミン 理美容サービス
バレンタイン喫茶 どちら焼き作り
大野屋販売 出前の日
防災訓練

ジャズミン 理美容サービス
カスミ移動販売 日曜礼拝
お茶屋カフェ
大野屋販売
防災訓練

理事兼兼総合施設長 宇都宮和子
12月末から1月にかけてコロナ感染で、スタッフもその対応に追われ、落ち着かない日々が続いておりました。2月に入り、やっと落ち着き、面会もできるようになり、ご利用者さんも「早く何かしたいですね。」と笑顔が返ってきます。特にKさんの笑顔はいつも明るく、どうしてあのような素敵な笑顔でいられるのか、尋ねたくなります。ベッドの枕元には「家族と共に」の日に撮った写真が飾られており、その写真も笑顔が一杯。手に取り話かける笑顔が止まりません。時にはその場を離れ難くなるが、手を振ると笑顔で手を振って下さる。ベッドで寝ている時も笑顔絶やさないKさん、朝の短い時間のひと時ですが、ご利用者さんの笑顔に励まされます。

「笑顔」誰にでもできそうで、出来ない。私は何も出来ないの。と、いながらも、笑顔は、神様からの贈り物。何ができたも、何が無くても、笑顔は、神様からの贈り物。神様から頂いた宝物かもしれません。多忙になればなるほど、笑顔に励まされる日々です。